

アブストラクト

このグローバリゼーション時代に、英語は世界でユニークな地位を獲得し、国際共通言語と言われ、言語問題を解決する手段の一つと認められる。このような状況では、英語教育が英語を母国語としない国にますます普及している。日本にも英語教育に注力し、学生の英語力を向上させるために努力をしている。しかし、日本の第二言語学習者の *TOEFL iBT*®テストまたは *TOEIC*®Listening and Reading テストの平均スコアは、アジアの他の国の平均スコアよりも低くなっている。それに加えて、学校英語教育、特に中学校で問題が見られる。したがって、この研究の初期の焦点は、英語学習に対する積極的な姿勢が欠けており、近年悪い成績をあげている日本の中学生である。多くの学者が英語力の向上に語彙サイズの重要性を認識しているので、本文には、中学校の英語教育を語彙のインプットから分析する研究がいくつか行われている。

第二章では、文部科学省の「学習指導要領（外国語）」を分析する。三つのバージョンを比較して、注目点の変化を見つける。そうすることで、語彙のサイズの役割がますます重要になっていることがわかる。第三章では、中学生が最も頻繁に使用する英語教科書シリーズを二つ選び、三つのバージョンを調べることにより、教科書構造の特徴、語彙サイズ、文章の主題が明らかになる。次に、第四章では、教員の教授過程を探るために学習指導案を分析する。また、語彙インプットために用いられた方法についても議論する。

これまでの先行研究の後、第五章では、英語の習得過程における語彙獲得の重要性や、英語力や学習動機づけに影響を及ぼす可能性のある要因について調査を行った。北九州市の日本人大学生 72 名が被験者として、調査に参加した。まず、被験者に英検準 2 級レベルの読解をしながら、その中の未知語に印をつけていると指示された。その後、彼個人情報と英語の学習に対する態度、特に語彙のサイズを向上させるための 2 つのアンケートを完成させるよう求められた。その結果、60%の未知語が中学校の英語教科書に現れたことを示している。また、読解正解率と中学校の英語教科書に現れた未知語の比率間に負の相関がある。そのほか、語彙を拡大する動機づけと読解への自信が、被験者の読解の得点に影響を及ぼす要因である。さらに、被験者のほとんどは英語学習における語彙の重要性を知っている。より高い英語力を持つ学生は語彙獲得においてより望ましいパフォーマンスを示す傾向がある。低い英語力を持つ学生は語彙のサイズを向上したいと考えているが、日々の生活においてはより少ない努力をします。それで、英語先生は語彙指導にもっと注意を払うように示している。単語インプット方法を考慮し、生徒の語彙サイズを確認するための小テストの必要がある。

この調査では、すべての被験者が理学系で、一週間に一回または二回の英語授業を受ける。したがって、彼らの英語力は、文学系の学生より低い。これはこの調査の結果に影響を与える要因の 1 つかもしれない。今後の研究では、被験者を文学系の学生に拡大

する必要がある。あるいは、中国や韓国など、アジアの他の国の第二言語学者と比較することもある。結果の分析を通じて、他の国の英語教育法が見いだされ、その長所が日本の英語教育システムの改革に活用されることを期待している。

キーワード：英語教育；日本の中学校；日本人第二言語学者；単語インプット；動機づけ